

四月例会御案内

(平成二十年)

財団法人 協和協会

△会長 塩川 正十郎

○御案内

四月二十五日(金) 正午～二時半

参議院議員会館一階 第一会議室

(第五七七回)

講 題 世界最強の日本文明の再発見・活用を提案する！
講 師 増田悦佐先生(経済アナリスト)

後記の報告にありますように、三月の月例会で『文芸春秋』社と『日本の論点』社により、近年の日本の実力が、いろいろな面で低下していることが論証され、大きなショックを受けましたので、その打開策、日本再生・活性化方策について、検討しようということになりました。そうした折、経済アナリストの増田悦佐先生が、二千年にわたるわが日本国の文化・文明を見直すべきだ。日本の文化・文明は、潜在的に世界最強といつてよく、これを、活用しない手はない、と説いておられるのが分かりましたので、今回は、増田悦佐先生に、日本文化・文明の再発見・再活用による日本再生の具体的な手段・方法につき、御解説をいただくことにいたしました。貴重なお話がうかがえると存じますので、奮って御参加下さいますよう、お待ち申し上げます。
(清原記)

◎ 当日の会費 四千円(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきます)

□御報告

去る三月二十六日の月例会は、経済財政政策担当大臣が「日本はもはや経済は一流と呼べる状況ではない」と発言され、日本の経済の実力に疑問符がつき、食糧自給率も40%を切り、学生の学力も世界ランキングからかなり低下しているなどと言われている折から、以前から、『文芸春秋』社が『日本の論点』社と提携して、「日本の実力」を分析していることでもあり、

この日は、まず『文芸春秋』編集部の大介様にこの問題についての導入部分を御説明いただき、次いで、実際の統計的分析をされた『日本の論点』編集長の渡辺一弘様に、御解説をいただきました。その内容は、国の借金、先端技術、資源獲得、医療制度等々、十数項目に分けての国際比較であり、参加者一同、いままさらながら日本の実態を知り、憂慮いたしました。それだけに、講話後の意見交換は盛んで、では、今後、日本の実力を向上・再生するにはどうすべきか、に論議が集中しましたが、講師の方々からは、まず、日本の教育の質から建て直す必要があるとのお答えもあり、当団体の各部会でも、この問題を検討してゆくことにいたしました。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十五本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、古瀬

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきます。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

四月二十五日(金) 出 欠 (いずれかに○印——昼食弁当を用意するためにも)